

農業に関する自然暦

誌名	農業および園芸 = Agriculture and horticulture
ISSN	03695247
著者名	加藤, 孝太郎 田淵, 浩康
発行元	養賢堂
巻/号	91巻10号
掲載ページ	p. 977-986
発行年月	2016年10月

農林水産省 農林水産技術会議事務局筑波産学連携支援センター
Tsukuba Business-Academia Cooperation Support Center, Agriculture, Forestry and Fisheries Research Council
Secretariat



農業に関する自然暦

—風土適応・環境保全型の栽培技術を構築するための先人からの贈り物—

加藤孝太郎*・田淵浩康*

〔キーワード〕：自然暦，生物季節，自然観察，風土適応型，環境保全型

農業は，人類が生存に必要な糧を得るために築き上げてきた，自然環境を高度に利用して作物栽培を行う技術体系である。先人たちの時代には，自然の変化が彼らの生活に及ぼす影響は，現代と比べてはるかに大きかったであろうことは想像に難くなく，そのような時代に作物を安定的に得るためには，耕起，播種，定植，収穫などの適期を見きわめる必要があった。そのためにわが国の先人たちは，節気や雑節といった季節の節目，あるいは地域ごとのランドマークや生物にあらわれる自然現象などをそれら農作業の目安に利用していた（久保田 2008）。後者は自然暦と呼ばれ，春先の雪解け時に発生する山腹の残雪の形（雪型）や，サクラやコブシなどの地域における名木の開花などは現代でもよく知られている。これらが長い年月をとおして伝承されてきた理由は，日本列島は南北に長く，また全国的に山間部が多いという地理的特徴から，地域における微気象が異なるため，各地で見いだされた自然暦が当該地域の気候の変化を反映した精度の高い指標であったからであろう。

近年，有機栽培において，低投入・安定型の栽培技術の構築の必要性が論じられるようになってきており（明峯 2007，西村 2015），そのような栽培技術を確立する要点のひとつに，環境と調和し自然を活かした風土適応型の農業技術を構築することが提案されている（鈴木ら 2007）。著者らは，それを実現するひとつの方法として，先人の知恵ともいえる自然暦に学ぶことが有効だと考え，自然暦が累計で約 3800 記録されている 3 冊の書籍（川口 1972，星 1975，1979）から 182 の農業に関する自然暦を抽出し，都道府県，作物，作業，指標別に分類集計するとともに，さらに 1953 年以降，各地の気象台が記録してきた生物季節のうち，自然暦と重複する

項目についてその有効性を検証した（加藤ら 2015）。その結果，自然暦は全国的に分布しており，主に穀類を中心に，播種・定植・収穫時期などの作業目安について，花・鳥・樹木などの変化を指標にするケースが多かったことを示した。また，自然暦の中での出現頻度が高く，かつ各地の気象台が観測しているノダフジの開花とカッコウの初鳴は終霜の回避に有効な生物季節であり，とくに後者の方がより回避精度が高いことを明らかにした。

これらの結果は，農業の現場において，自然観察が重要であることを再認識させるものであり，有機栽培や自然栽培をはじめとする環境保全型農業全般において自然観察力を養うための参考になると考えられる。とくに，農業に関する自然暦は，わが国の古典的な農業生産活動が，当時の人間の生活圏内にいた生物や環境の観察とともに行われていたことを示す資料として一定の価値を有している。これらの点を鑑み，抽出した 182 の自然暦を記録にとどめておくことは重要な意義をもつと判断し，本稿にてその全てを紹介することとした。本資料が，自然観察をより良く活用した，風土適応・環境保全型の栽培技術を構築するための一助となることを期待したい。

文献

- 明峯哲夫 2007. 第 I 部 有機農業の技術開発をどう進めるか. 第 3 章 低投入・安定型の栽培へ. 日本有機農業学会. 有機農業研究年報 Vol.7. 有機農業の技術開発の課題. pp.36-51. コモンズ.
- 星 克美 1975. 村のことわざ事典. 富民協会.
- 星 克美 1979. 続・村のことわざ事典. 富民協会.
- 加藤孝太郎・田淵浩康・木嶋利男 2015. 自然観察力を涵養するための自然暦および生物季節に関する研究:風土適応型の有機栽培技術の構築に向けた重要な視点. 有機農業研究 7: 42-50.
- 川口孫治郎 1972. 自然暦. 八坂書房.
- 久保田豊和 2008. 太陽と月の暦で野良まわり. 久保田豊和, 暦に学ぶ野菜づくりの知恵 畑仕事の十二ヶ月. pp.9-24. 家の光協会.
- 西村和雄 2015. 第 3 章 これからの有機農業 2. 有機農業を分類する. 西村和雄. 西村和雄の有機農業原論,

*公益財団法人 農業・環境・健康研究所 (Kotaro Kato, Hiroyasu Tabuchi)

pp.175-181. 七つ森書館.
鈴木麻衣子・中島紀一・長谷川浩 2007. 第I部 有機農業の技術開発をどう進めるか調査報告>地域の自然に根ざした安定系としての有機農業の確立—埼玉

県小川町霜里農場の実践から—. 日本有機農業学会. 有機農業研究年報 Vol.7. 有機農業の技術開発の課題. pp.115-133. コモンズ.

表1 農業に関する自然暦

No.	自然暦	解説	出典
1	杉檜の植え匂は彼岸の七三.	紀伊東牟婁郡四村附近の諺. 中日前七分後三分の意. (鈴木氏)	1
2	農鳥嶽の雪が消えて鳥の形だけ残って見ゆる時がシロカキ時だ.	静岡県安倍郡と山梨県北巨摩郡との境附近の民俗. シロカキは漆掻きのこと.	1
3	梅の花の落ちる頃から木接が始まる.	筑後国分倉健久太郎八十二翁の談.	1
4	松の新芽が一寸伸びた頃が植木の植替に最もよい.	久留米市附近の植木屋仲間の諺. 秋の植替よりも春のがよい. 春の中でもこの時期には大抵の植木が概ね間違なくつくという.	1
5	コブシの花の多い年は豊年なり.	羽前最上郡東小国村塚田附近の諺.	1
6	彼岸中に氷が流るるなら種を下すな.	陸中閉伊川上流田代附近の諺. 播種しても成育覚束なしとの意なり.	1
7	立木立草の周囲の雪が円く融ければ豊年, 北側だけ残れば凶作.	陸奥東通村附近.	1
8	彼岸過ぎての麦の肥.	加賀松任地方. 紀伊にても云. 施肥の効なきを云う.	1
9	山桜が咲いたら麻を蒔かにゃならぬ.	因幡八頭郡篠坂附近.	1
10	山木蓮が咲くと粃蒔をせねばならぬ, 散ると田植を始めにゃならぬ.	石見鹿足郡畑ヶ迫村附近. ヤマモクレンとはコブシの方言.	1
11	コブシの花が咲くと畑豆を蒔かねばならぬ.	佐渡の諺. 畑豆は大豆をいう.	1
12	檜の新芽が緑になると(新芽は白っぽい) 稗を蒔け.	下野塩谷郡栗山村川俣附近.	1
13	田打桜.	陸奥中津軽郡西目屋村砂子瀬. この桜咲けば里人水田を打ち始む.	1
14	田打ち桜.	コブシの方言(秋田県鹿角郡宮川村). その開花期には地方農民は稲田の用意に田をうち始むる風あり故に云う.	1
15	田植桜.	秋田県鹿角郡宮川村附近. コブシをかく呼ぶ. その開花期には稲田の用意に田を打ち始むるに因みていう.(前項中津軽地方の項参照)	1
16	種蒔桜.	佐渡の諺. 桜の一種. その開花頃は粃おろしの時季なるに云.	1
17	種蒔桜.	宮城県栗原郡若柳町新山公園なる, 一本の桜の名, その花の咲きそめが粃蒔の時季なるにより由来せる名なりという.(熊谷三郎氏)	1
18	種蒔桜.	羽前西村山郡大井沢附近.	1
19	栗駒山に種蒔坊主.	宮城県仙北地方の諺. 種蒔坊主とは栗駒山(岩手県にては須川岳)の中腹以下に積雪が坊主型となって現るに云, 種は粃を意味す. 粃蒔時期をいうなり.(熊谷三郎氏)	1
20	カラスヤが芽を出すと種蒔にかかる.	宮城県鳴子附近の諺. カラスヤとはイノコヅチの方言? 盛夏には茹でて醤油にひたし物として味よく, 刈干しおけば腎臓の薬になるという.	1
21	麻蒔桜.	岐阜県揖斐郡久世村字檜原裏山の中腹に明治三十年頃までその老を誇り居りしが, 心なき炭焼に伐り採られて炭となりし桜. 普通の桜は四月上旬咲けども, この樹は老大樹なる上, 場所が山の中腹なるが為, 四月中旬に入って初めて咲く. 里人は毎年, この桜の咲くを見て麻を蒔く時期の見当となしいたり. かくて, この桜をば麻蒔桜と呼ぶしいたり.(日下部重太郎氏)	1

22	山桜が咲くと甘藷の種をふせよ.	伊予北宇和郡日吉村附近の諺. 四月清明, 四, 五日頃に当る.	1
23	桜の花が山の中腹まで咲き上ったら茄子の種下ろしと甘藷の苗の植つけ.	阿波那賀川上流西宇附近. 粃はナガシの降りぞめに種をおろし, 降り終りに田植する.	1
24	駒形山の白馬と種蒔き.	陸中と羽後との国境にも, 駒ヶ嶽というのがある. 四, 五月の雪解けの頃になると, 山の八合目程のところは一頭の白馬の形が顕われる. 農家はその白馬の形によって種蒔きの見当をきめる. 平福百穂氏(郷土研究). 駒形山は御駒山とも雛鷺山ともいう. 残雪の頃, 鳥が両翼を張ったように見える. その鳥の形によっても種蒔きの時日を卜する風がある.	1
25	藤の花が咲き始めると稗を蒔かぬばならぬ.	下野塩谷郡湯西に於ける自然暦.	1
26	お不動さんの藤が花咲きや栗の蒔旬.	紀伊東牟婁郡四村. 不動尊は渡瀬字滝頭にあり.(鈴木昇三氏)	1
27	梨の花咲きや栗を蒔け.	紀伊東牟婁郡四村附近.(鈴木昇三氏)	1
28	榛のキナが彼岸に伸びると豊年. 彼岸に後れば凶作.	陸奥三戸郡田子町長坂附近. キナは穂.	1
29	マンサクの咲かぬ年は不作なり.	右は羽前最上郡東小国村塚田附近の諺.	1
30	柳の白いのが多い年は豊年, 少ない年は不作なり.	羽前最上郡東小国村塚田附近の諺.	1
31	富士の農男, 甲斐の野鳥.	四, 五月頃富士山の雪消残りて, 田子の浦の方より望めば, 宝永山の方に人の形の如く見ゆ. これを農男(野男)といい, 又, 甲斐の方より望みて, 鳥の形に残雪の見ゆるを, 甲斐の野鳥という, 農家これを見てその年の豊凶を卜すという.(新撰俳諧辞典)	1
32	上茶ツツジ.	筑後八女郡横山村附近の称呼. キリシマの方言. キリシマツツジの咲き始める頃は, 茶摘みの開始期なり. その頃摘み取らるる茶は上等品なればなり.	1
33	荒神のフロの藤の花盛りがへイトコの出盛り.	美作真庭郡中和村下鍛冶屋附近. フロとは古き森, へイトコはスズノコ即ちスズタケの筈の方言.	1
34	催青は早稲桑の燕口の時.	燕口とは脱苞の意. 形相似たるより名づけし?(薩摩宮ノ城附近)	1
35	ハダシキョウの花盛りをみてから二十日許りして, サクラの花盛りをみてから十日後に, 催青にかかれ.	薩摩宮ノ城附近の諺.	1
36	麻蒔鳥.(この鳥が啼くと麻を播かぬばならぬと云)	筑前雷山地方の諺(安部幸六氏報). この鳥を安部氏はアオバズクと認めて報ぜらる. 雷山地方は北の方に面し, 玄海の潮風を受くる故, 農は暖かならじ. さるにてもアオバズクの出現と麻蒔とは伴い難からむ. 川口は寧ろポンボンドリ即ちツツドリ of 出現が麻蒔時に近からむと考う. 暫く懸案として見むと思ふ.	1
37	傾山の八合目が緑(アオ)んあら苗代時.	豊後大野郡長谷川村上畑附近.	1
38	櫛(ケヤキ)の葉が早く出ると最早晩霜が来ない.	陸中気仙郡上有住村八日町附近. 桑は近頃は人工的植物となりて無鉄砲に早く出でて霜害を受けることあれど, 櫛にはその事なしと云.	1
39	山毛櫛の若芽が緑(あお)なくなったら種を下ろせ.	羽前西村山郡大井沢附近. 山毛櫛は雪消を俟って芽を出す. 諺に出た山毛櫛は殊に早く出るもの. その季をば粃の播種期とみるなり.	1
40	金北山の種蒔猿.	佐渡の諺. 積雪漸く溶けて岩角現われその形猿に似たるにいう. この岩の現わるる時季には粃を下すべしとの意なり.(第一二八項<本稿ではNo.24>駒形山の項参照)	1
41	椴の花盛りが稗蒔.	上野奥利根(湯の小舎附近)大蘆附近に於ける諺.	1

- | | | | |
|----|--------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------|---|
| 42 | 柿の若葉に大豆粒が一杯になる頃大豆を蒔かにならぬ。 | 甌島上飯村里附近の諺。 | 1 |
| 43 | 柿の若芽が夏大豆を三粒載せ得る頃はその種蒔き時である。 | 久留米地方の諺(中島麟太郎氏)。次項宗像郡上西郷村附近の諺参照。 | 1 |
| 44 | 柿の芽が出始めたから大豆を蒔かねばならぬ。 | 筑前宗像郡上西郷村附近の諺(安部幸六氏)。畑地の麦作の間に大豆を蒔きおき、麦刈りの後は大豆をして代り繁殖せしむるなり。夏大豆の蒔きしをは柿の芽が伸びて大豆一粒を包みきる位の時である云々。 | 1 |
| 45 | 桐の花の咲く頃に豆を蒔け。 | 陸奥下北郡川内町附近。 | 1 |
| 46 | ハチクがぬけたら大豆を蒔け。マダケが抜けたら粟を蒔け。 | 右は傾山(かたむきやま)麓に於ける自然暦。 | 1 |
| 47 | 螢尻の第一の花に大豆まけ、第二の花に粟を蒔け。 | 傾山(かたむきやま)麓に於ける自然暦。 | 1 |
| 48 | ウツギの蕾がみゆると稗を植ゆる。 | 陸奥下北半島尻労の諺。彼地にはドクウツギあり、又ハコネウツギもあり、諺にいうは真のウツギなり。最も遅く咲く。 | 1 |
| 49 | 柿の葉の二つ葉が出る頃牛蒡の蒔き時である。 | 肥前平戸島志々伎地方の諺。(安部幸六氏報) | 1 |
| 50 | 里芋は五月歌聴いて葉を出す。 | 越後東蒲原郡西川村附近。 | 1 |
| 51 | イチゴが咲いたら甘藷蔓を植えねばならぬ。 | 志摩賢島附近。 | 1 |
| 52 | 閏年は蚕豆一方のみに花咲く故収穫少し。 | 紀伊田辺近在の俗信。(南方熊楠氏) | 1 |
| 53 | 甘藷の新蔓の挿し植え頃はヒラクチの出盛り、大豆の採り入れ時がヒラクチの最も荒れる頃。 | 肥後玉名郡南関町附近の諺。紀伊有田郡の古諺「八月ハビに嚙まるるな」に想到す。ヒラクチ、ハビ、共にマムシの方言なり。 | 1 |
| 54 | 豆蒔鳥が啼くから豆を蒔かねばならぬ。 | 古来近畿地方の俗信。カッコウにこの名あるはこの俗信より来る。(附)別にムギマキという鳥あり、多分麦蒔と季節の関係あるならむ、未確。 | 1 |
| 55 | カッコウが啼くから大豆を蒔かねばならぬ。 | 信濃東筑摩郡明科附近の諺。藪をとりに行って休息していると、梢の方で澄んだ声で啼くのを耳にした。その時人々は思い出したように、大豆を蒔かねばならぬという。(東京神田森田館女中君、但し越後東蒲原郡西川村室谷出身) | 1 |
| 56 | トットが鳴き出したから粟を蒔け、カッコウが鳴くから豆を蒔け。 | 右は青森県下北郡田名部町の諺。 | 1 |
| 57 | カッコウが鳴くから粟を蒔け、トットが来たから豆を蒔け。 | 陸奥中津軽郡西目屋村砂子瀬。 | 1 |
| 58 | カッコウが鳴くと大豆を植えよ。 | 陸奥大畑。 | 1 |
| 59 | トートーが鳴くと稗を蒔け。 | 陸奥大畑。トートーは筒鳥。 | 1 |
| 60 | トットが来たさ粟を蒔け、カッコウの来たさ豆を蒔け。 | 陸中早池峯山南方村落の諺。トットは別名、トントンドリ又はオットンドリともいう由。ツツドリらし。 | 1 |
| 61 | ヒョウタンドリがないたから粟を蒔け。 | 右は備後東城地方の諺。その鳥の声瓢箪の口を敲くが如くボンボンと鳴る。民俗又その瓢箪の中に粟を納めて種蒔時季を待つという。これは深き理由あるに非らじ、納めおくに利便なる為なるべし。幾分興味もこもって。 | 1 |
| 62 | カッコウが鳴くから稗蒔き。 | 陸中盛町附近。 | 1 |
| 63 | カッコウが啼くと大豆を蒔かねばならぬ。 | 伯耆東伯郡福本附近。信州では豆蒔鳥とさえいう。 | 1 |
| 64 | ガッポウが鳴くと黍の植付が後れた。 | 土佐梶原広野附近。又ジジジが鳴くと仕つけが後れた、ともいう。 | 1 |
| 65 | 郭公が啼くと山藷の蔓が出る。郭公が啼くと大豆を蒔かねばならぬ。 | 越後東蒲原郡西川村室谷附近。 | 1 |

- | | | | |
|----|--------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------|---|
| 66 | トットが来たさ豆を植えよ、カッコウが来たさ粟を蒔け。 | 羽後鹿角郡老沢附近。(第二五六項<本稿ではNo.60>参照) | 1 |
| 67 | 郭公が鳴くから豆を蒔け。 | 陸奥下北郡川内町大畑町あたり。 | 1 |
| 68 | トットに粃蒔き、カツコに粟蒔き、ホトトギスに田を植えよ。 | 秋田県北秋田郡荒瀬村鍵滝附近の諺。トットは筒鳥の方言らし。この辺、粃の苗代の下さるる前、人工的の温め方を施すが常なり。 | 1 |
| 69 | 麦が豊年なりや米も豊年。 | 紀伊西牟婁郡万呂村附近。米に花咲きや豊年じゃ。(鈴木昇三氏) | 1 |
| 70 | 榎の葉にスズメがとまっても見られなくなると稗をまかねばならぬ。 | 佐渡金北山東地方の諺。 | 1 |
| 71 | けとけとが啼けば手苗を捨てて豆を蒔かねばならぬ。 | 紀伊の民謡。ケトケトはカッコウを意味するに非ずや、未詳。カツコウに非ず、ヨタカなること判明したり。奥州にてはヨタカをナマスハタキという。これはその鳴声に因みし方言なり。 | 1 |
| 72 | コカンボが咲くと大豆を蒔かにならぬ。 | 筑後八女郡横山村附近の諺。コカンボは合欵木の方言? 季節合せず、懸案。 | 1 |
| 73 | 稗蒔翁、稗蒔婆。 | 木曾駒ヶ嶽の峰、将棋頭の北東面に、伊那町以北より望みて、雪の消えのこりし形。 | 1 |
| 74 | コーカの最初の花に豆を蒔け、次の花に粟を蒔け。 | (蛭尻の第一の花に大豆蒔け第二の花に粟を蒔け) ハチクがぬけたら大豆蒔けマダケが抜けたら粟を蒔け。豊後大野郡長谷川村上畑附近。 | 1 |
| 75 | ミズシの花が咲くと田植せにならぬ。 | 筑後八女郡横山村附近の諺。ミズシはミズキの方言らし。 | 1 |
| 76 | 栗の花の最中は田植の最中。 | 伯耆東伯郡東竹田村附近。 | 1 |
| 77 | 栗の花盛りに田植。 | 美作勝山町附近。伯耆東竹田村附近参照。 | 1 |
| 78 | 田植白鷺。 | 筑後柳河古諺(下村兼二氏)。シラサギは昔多く棲息せし頃にては田植時季に特に多く現われしよりかくいいしなり。昭和の今日にては獵期の開始より少し以前に現われ三月さし入り頃までは徘徊すれど、その後目につくことなし。 | 1 |
| 79 | アオバトが盛に鳴くから田植も終頃となった。 | 青森県下の諺。同地方にては五月上旬に渡来十月頃渡去るを常とす。鹿児島島崎両県下にては十月末出現。四五月頃去るを常とす。 | 1 |
| 80 | ホトトギスのさかり頃田植する。カナカナセミの鳴く頃盛に成育する。ミンミンセミの鳴く頃稍々熟する。 | 山形県最上郡東小国村附近の諺。 | 1 |
| 81 | オーブ山の雪の残りが馬一匹に見ゆるから田植をしなければならぬ。 | 陸奥中津軽郡西目屋村砂子瀬。 | 1 |
| 82 | 三自草(ハンゲショウ)(一名カタジロ)の葉の一枚白くなったら田植えの時季だ。 | 宗像郡上西郷村字上西郷にての諺。(安部幸六氏) | 1 |
| 83 | 栗駒にスピ型が出ると田植を始めよ。 | 宮城県仙北地方の諺。スピはシビ即ち鮪の意。積雪の残り方という。(熊谷三郎氏) | 1 |
| 84 | 筍が網を張れば田植時となる。 | 豊後竹田附近の諺。網を張るとは若竹となること。(拝郷助人民) | 1 |
| 85 | メジロの多く渡り来ると梅が多く実る。ヒヨドリが多く渡り来るとカタシが多く生る。 | 右二項、甌島上甌村中甌附近の諺。カタシは山茶花。 | 1 |
| 86 | 雷が鳴るとトウマメが落つる。 | 筑後国分倉鍵太郎老の解、雷鳥は降雨を伴う、降雨は蚕豆の花を霑らし結実を完からざらしむるよりならむ云々。 | 1 |
| 87 | ムギツギが啼くから明日はムギ刈らむばん。 | (百済来村辺農夫の語) | 1 |
| 88 | 粟蒔きドンコ。 | 筑後瀬高町附近の諺。ヨシノボリ(方言キシキシドンコ)の幼魚は粟蒔き頃に矢部川を浜るよりいえるならむ。 | 1 |

- | | | | |
|-----|-------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------|---|
| 89 | マメマキウグイ. | 陸奥下北郡田名部町附近. 春も進みて田名部川にウグイの若きが遡る頃, 大豆を蒔くを常とす. 転じて大豆蒔きの季節にウグイが遡上するともいう. | 1 |
| 90 | 夏の土用に入ってホトトギスが鳴くと豊作. | 陸中五葉山南麓. | 1 |
| 91 | 大根は土用の露を受けて三日してから蒔け. | 下野塩谷郡湯西に於ける自然暦. | 1 |
| 92 | 水雞が稲田に巣くうとその稲は豊作だ. | 佐渡中央部の言いならわし. 豊作な位の稲に好んで巣くう. 何れが囚やら果やら面白きところ. | 1 |
| 93 | 椿接いで水うち崩す雲の峯 青々 | 夏の土用に接木すれば良く根づくという. | 1 |
| 94 | 夏の土用に東風三日吹きゃ米の相場が下がる. | 紀伊西牟婁郡万呂村附近. (鈴木昇三氏) | 1 |
| 95 | 土用の稲妻, 千石光り. | 紀伊西牟婁郡万呂村附近. (鈴木昇三氏) | 1 |
| 96 | 麻のよく成長するその翌年は米が豊作なり. | 羽前最上郡東小国村塚田附近の諺. | 1 |
| 97 | ツクツクボウシが多ければ米が高い. | 肥前平戸島志々伎村附近の諺. | 1 |
| 98 | ツクツク法師の鳴く節の多い程米の値が上る. | 福岡郊外の俗信. 少きは十七八回, 多きは四十回, 普通は二十二三回より二十四五回なり, と人々いう. いうが儘に記しておく. (下村兼二氏採集) | 1 |
| 99 | ツクツクボーシ鳴き出せば柿が食える. | 紀伊東牟婁郡四村附近の諺(鈴木昇三氏). 紀伊有田郡にては, ツクツクボウシ! ツクツクボウシ, ズクシボウシ! ズクシボーシ! と鳴く. 所謂, ズクシは熟柿の意, 実は未熟柿に虫のつきで紅赤軟化せしに云. | 1 |
| 100 | 蕎麦蒔きトンボ. | 紀伊西牟婁郡二川村兵生辺では, ソバマキトンブという蜻蛉が, 丁度鍬の柄の高さに飛ぶ時を待って蕎麦を蒔く. (南方熊楠氏) | 1 |
| 101 | 稲妻すれば稲が実り出す. | 紀伊和歌山附近, 有田郡, 東牟婁郡四村, 節用集などにみゆるものなり. 鹿児島県串木野. (第四二二項<本稿ではNo.95>参照) | 1 |
| 102 | ゾウミの多く実の生る年は凶作. | 陸奥下北郡東通村大和附近. ゾウミとはガマズミ. 木陰に茂る. 干魃ならぬ年に豊熟する. | 1 |
| 103 | シビトバナの咲く時は蕎麦の蒔き時. | 紀伊木の本町附近. 死人花は曼珠沙華, 秋蕎麦の蒔き時. | 1 |
| 104 | 松茸の多い年は米が不作. | 紀伊の諺. 他地方にても聞きたれど今記憶せず. | 1 |
| 105 | 雨栗, 日柿. | 紀伊の諺. 共に開花期の雨晴に依ってその実の豊作を予測するなり. 栗の開花期に晴天なれば不作なりや否や確かならざれど, 柿の開花に雨降らば花壺腐るなり. | 1 |
| 106 | 椎の豊年, 米が不作. | 紀伊田辺附近の諺. (鈴木昇三氏) | 1 |
| 107 | ハネ(榛)の実の多い年は米が良く出来る. | 羽前最上郡東小国村塚田附近の諺. | 1 |
| 108 | 杉の実の多い年は米が良く出来る. | | 1 |
| 109 | 百舌鳥の初声に栗が笑み始める. | 下野宇都宮附近の諺. 九州地方と趣を異にす. | 1 |
| 110 | 百舌鳥が鳴くと栗が笑む, 富士が白くなると甘藷が甘くなる. | 武蔵北多摩郡千歳村附近, 明治四十一年頃. (徳富蘆花氏) | 1 |
| 111 | 鹿が鳴くから栗を刈らねばならぬ. | 上野利根川上流湯小舎附近. | 1 |
| 112 | イツキの食える時は稲の刈り時. | 伯耆東竹田村穴鴨附近. イツキとは葉は甘茶のそれの如くにして稍々しわく, 実はオランダイチゴの如く赤き円長きものと云. | 1 |
| 113 | コスモスの花が咲くと松茸が出初める. | 丹波周山地方に於ける岡部真平氏の観測. 備後にても当るといふ. | 1 |
| 114 | 椎茸の櫛(ほた・ほだ)はホソの樹を敲(たた)いて二葉三葉落ちる頃が旬. | (紀伊有田郡八幡村) 紀伊東牟婁郡四村附近の諺に, 秋の土用に入れば椎茸の代り旬, というがあり. (鈴木昇三氏) | 1 |
| 115 | 秋の土用に入れば椎茸の代り旬 | | 1 |

116	ガンタケ.	しめじ茸の肥前方言. 雁の渡来する頃発生する茸という意.	1
117	麦蒔鳥.	セキレイ. 遠江常陸上総の方言. 鶉は炎暑中は概ね山間の涼しき溪間などに移り, 秋冷の候, 里に現わるるを常とす. 関東地方には麦蒔きの頃多く見え始む, 殊に麦蒔きの為, 鋤きかえして種下しにかけし畝に現われて虫を採り食うセグロセキレイを見ること多し. 下総方言ムギドリ亦セキレイを意味するも同じ事情よりなるべし.	1
118	麦蒔雁.	雁の渡来を期として麦を蒔くを風習としていたという. 隠岐海士郡西海岸の諺.	1
119	稲の穂が出たら真鴨が渡って来る.	隠岐海士郡海士村附近の諺. 有明湾附近にては稲の穂の出かける頃小鴨が来る. (実験)	1
120	稲の穂のうれる頃は松茸の出時だ. 麦の穂のうれる頃は松茸の出時だ.	肥前東松浦郡入野附近の諺. 後者はサマツダケと称して香の少きもの, 麦秋頃に出るものにいう. (波多野一君)	1
121	桐(くぬぎ)の葉が栗毛色になると小麦を蒔け.	筑後星野本星野附近の諺. 現今では少し早目に蒔くと人々いう.	1
122	地主さんの紅葉赤なりや麦蒔時じゃ.	紀伊東牟婁郡四村渡瀬にある無格社に地主さんというがあり, 境内古杉森立し中に一本の楓あり, その紅葉が附近の麦蒔暦となり居れるなり. (鈴木昇三氏)	1
123	银杏の葉の黄ばむと小麦を蒔かにならぬ.	筑後八女郡横山村附近の諺. (次項紀伊及筑前各地なる同題参照)	1
124	高山寺の银杏があこなるさか麦蒔しようか.	紀伊西牟婁郡万呂附近の諺. 高山寺は稲成村なる真言宗の寺院. (鈴木昇三氏)	1
125	麦の蒔きしおは公孫樹の葉見て.	筑前宗像郡西郷村内殿地方の諺(安部幸六氏). 前記紀伊安楽寺の公孫樹の黄葉する時云々と一致する点面白し.	1
126	银杏の葉が黄ばむと麦蒔に油断が出来ぬ.	紀伊の俗諺. 安楽寺の公孫樹(イチョウ).	1
127	麦蒔鳥.	筑後三潁郡犬塚村附近の諺(田中美穂氏). 麦蒔鳥とはミヤマガラスの方言. この鳥の大群の出現し始むる頃が麦蒔時季なるより名づけしものなり.	1
128	カラス星が浅間山の上の十間許に出ると麦の蒔き時.	右は紀伊木の本町に於ける自然暦. (加田利八氏の談, 昭和十一年三月六日)	1
129	冬至の晩は大根畑が音がする.	紀伊有田郡中部の諺. 生育の絶頂を越さんとする時期なるをいう. 越して終えば「ス」が立って, 繊維が剛張るといふ.	1
130	公孫樹や柳の葉が颯と落ちて終えば翌年は豊年.	陸奥三戸郡田つ子長坂附近. 何時とはなしに漸次に散った翌年は凶年.	1
131	木の葉の落ちて裏かえり居ると翌年は風雨に遇って凶年なり.	美作香々美村地方の諺. (青木勘氏)	1
132	天の川が頭の上に来りや新米が食える.	紀伊西牟婁郡万呂附近の諺. (鈴木昇三氏)	1
133	蕎麦雉.	佐渡俗諺. 佐渡のソバは皆秋蕎麦なり. 蕎麦が熟する頃キジの肥ゆるにいう.	1
134	雪水が出れば豊年.	陸奥東通村附近.	1
135	稲麴の多い年は酒の出来がよい.	筑後地方醸造業者間の諺. 稲麴とは稲穂の或粒が粃殻を割きて黒く麴化して膨れてはみ出でみゆるをいう. この稲麴の多い年は米質が酒を造るに適するよりいうならむか.	1
136	寒九に雨降れば翌年豊作.		1
137	寒中に地震あれば翌春の豆に種無し.		1
138	鱒の厚い年は実りがよくない.	陸奥東通村附近. 厚いとは多いの意. 寒流につく魚, 多く川に遡るは水の冷さを意味す.	1

- | | | | |
|-----|------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---|
| 139 | ニワトコの芽出しを見てから桑に芽出肥をやれ。 | 栃木県南部の諺。ニワトコは逸早く一月末に出芽す。 | 1 |
| 140 | ブナの若芽が緑になったら種を下せ。 | (山形県) | 2 |
| 141 | コブシの花が咲けば苗代の種まきが始まる。 | (島根県) | 2 |
| 142 | カッコウが鳴くから粟(あわ)をまけ。 | (青森県) | 2 |
| 143 | 粟(あわ)まきゼミ。 | ハルゼミのこと。このセミが鳴きだしたらまくがよい。 | 2 |
| 144 | アワが実入ればウズラが立つ。 | ウズラがアワ畑に下りるようになったらアワが熟した証拠で、刈り入れてよいこと。(山形県) | 2 |
| 145 | 稗(ヒエ)は麦より三日前畦豆は三日後れ。 | ヒエをまいたあとに麦、そのつぎに大豆をまくがよい。この場合、麦は春まき麦のこと。(新潟県) | 2 |
| 146 | ヒエまきは苗代下り。 | 種もみをまいたらすぐ、ヒエをまくがよい。(長野県) | 2 |
| 147 | 豆まき小僧。 | (山梨県) | 2 |
| 148 | 豆まきカッコウにヒエまきどき。 | カッコウ鳥が鳴きだしたらダイスをまき、ツツドリが鳴くようになればヒエをまけということ。(青森県) | 2 |
| 149 | フジの花に豆まき。 | (新潟県) | 2 |
| 150 | 卵の花盛りには豆をまけ。 | ウツギが花盛りになったら、大豆をまくがよい。 | 2 |
| 151 | ヤマバト鳴いたら豆をまけ。 | ヤマバトが鳴くと雨が近いから、大豆をまくがよいといわれている。はっこんが鳴けば…ともいう。はっこんはヤマバトのこと。いずれも雨降りを期待してのこと。 | 2 |
| 152 | カッコウが鳴けば種をまけ。 | 北海道でカッコウが鳴き始めるのは大体5月下旬で、こんなころになれば晩霜の心配もなくなる。またカッコウが鳴けば雨が近いともいわれ、種まき鳥ともいわれている。(北海道) | 2 |
| 153 | キリの花が咲き出せばゴマまき。 | ゴマは遅霜の心配がなくなったらまくがよいということ。新潟や会津地方ではキリの花が咲けば霜が降らないといわれている。5月の下旬ころ。(新潟県) | 2 |
| 154 | 藤の花見て綿をまけ。 | フジの花が咲けば綿をまく適期である。 | 2 |
| 155 | ホトトギスが鳴いたら茶を摘み麦を刈れ。 | ホトトギスが鳴く季節になると、茶摘みやら麦刈りやらで、忙しくなるということ。(和歌山県) | 2 |
| 156 | 桜の花が中腹まで咲き上がったらサツマイモの苗の植え付け。 | サツマイモは寒さに弱い作物であるから霜が下りなくなってから植えつけるとよいということ。(長野県) | 2 |
| 157 | がっぽうが来るとタケノコが出る。 | かっこうが鳴きだすとタケノコが頭を持ち上げるようになる。(山口県) | 2 |
| 158 | 田植え花が咲いて田植え。 | 田植え花はウツギの花。ウツギはウノハナ(卵の花)またはカキミグサともいわれ、觀賞用として垣根などに植えられる。初夏に白い五弁の花を咲かす。この花が咲いたら田植えということ。(新潟県) | 3 |
| 159 | 木苺実れば田植えの時じゃ。 | キイチゴはバラ科の小灌木で茎葉にはとげがある。初夏に白い花が咲き黄色い果実をつける。村の子どもたちにとっては捨て難い里の味であった。(和歌山県) | 3 |
| 160 | 桑苺に田植え。 | 桑イチゴがうれたら田植えの時期ということ。桑の花、それは目にもとまらぬほどのものだが、いつのまにか赤い実となり、さらに紫色に変わってくる。あの赤とんぼの歌に出てくるお背戸の桑の実、今の子どもたちにはなじまぬものかも知れぬ。(埼玉県) | 3 |
| 161 | こうかの木の一番花が一番草二番花が三番草。 | こうかの木はネムノキのこと。合歓の文字からコウカとなったもの。ネムノキはマメ科の落葉喬木で、名前のごとく葉が刺激をうけたり、夜暗くなると閉じるので、ネブリノキともいわれる。六月から七月にかけて紅色の花をつける。それが一度に咲かず、に時期を分けて咲くので一番花、二番花という。これによって水田の除草時期を示したもの。(大分県) | 3 |

162	かち鳥が見えたら麦をまかねばならぬ。	かち鳥はミヤマガラスのこと。ミヤマガラスは冬鳥として、秋になると朝鮮方面から渡ってくる。この鳥が現れるようになったら、麦まきの時期である。(長崎県)	3
163	麦がうれてくるむぎつぎが鳴く。	むぎつぎはアオバズクのこと。アオバズクは南方の鳥で夏鳥として渡来する。夜行性で、ホーホーと鳴く。この鳥が現れると麦が熟すという。このため別に「麦のうませ鳥」ともいう。(鹿児島県)	3
164	麦枯らし。	オオヨシキリのこと。麦が成熟することやってきて、麦を食い荒らすのでこのようにいわれる。夏南方から渡ってくる鳥で、オオヨシキリ、コヨシキリの別がある。ヨシなどに巣を作り、ギョッ、ギョッと鳴くので行々子の名がある。カッコウドリやホトトギスの育て親として知られる。(高知県)	3
165	麦の穂がでるとシャクが肥える。	シャッパまたはシャコともいわれ、正しくはヤマウズラのこと。麦秋を知らせる鳥として知られる。普通のウズラよりは一回り大きく、肉がおいしいので有名である。(熊本県)	3
166	麦の猿面。	麦の収穫期をサル顔にたとえていったもの。刈り遅れないよう注意したものであろう。(佐賀県)	3
167	かぎ豆。	麦の間の大豆が、かぎ状に伸びたら麦を刈れということ。麦のためにも、大豆のためにも手遅れにならぬよう注意したもの。(長崎県)	3
168	麦は三合青刈りせよ稲は三合落として刈れ。	麦はいくらか青味の残っているうちに刈るがよい。稲はよく熟したものを刈るがよい。「麦の青刈り倉が立つ」ともいう。(新潟県)	3
169	曼珠しゃ華の花の咲くときは蕎麦のまくとき。	マンジュシャゲは秋の彼岸頃に咲くのでヒガンバナともいわれる。ソバは生育期間が短く、まいてから七十五日目の夕飯に間に合うといわれるほどで、種をまく前から収穫期が予定されている。要は生育期間中に霜害に合わせぬことが肝心である。(和歌山県)	3
170	蕎麦まき蜻蛉。	秋ソバはトンボ(アキアカネ)がとぶようになったらまくがよいということ。(高知県)	3
171	蕎麦は二、三男取るより長男を取れ。	蕎麦の収穫は、初めの実が熟したら刈り取ればよい。二、三男というのは後から熟す実ということ。蕎麦の花は下の方から咲き始めて、順に上へ達するので、全部熟するまで待っていたのでは、刈り遅れるのでこのようにいわれる。(鹿児島県)	3
172	稲の新芽が青くなったら稗(ひえ)をまけ。	苗代の苗が出そろって、一様に青くなったら稗をまくがよい。昔は稗は備荒作物として貴重な存在であった。ただしノビエは別種である。(群馬県)	3
173	稗(ひえ)まきとど。	とどはホトトギスのこと。ホトトギスの声が聞けるようになったらヒエをまくがよい。(青森県)	3
174	稗(ひえ)まきは苗代下り。	苗代に種籾を下ろしたらヒエをまくのがよい。(長野県)	3
175	雀(すずめ)隠しゃ早く鳥(からす)隠しゃ遅い。	大豆のまく時期を示したもの。ハゼの木の葉がスズメを隠す程度なら、まだ時期が早い、カラスを隠すほどに伸びたら、もうすでに遅いということで、その中間が適期である。(鹿児島県)	3
176	牛蒡の種まきは柿の葉三枚。	ゴボウはカキの葉が2-3枚開いたころにまくのがよいということ。(岐阜県)	3
177	いもおやし。	いもおやしはアオバズクのこと。南方系の鳥で夜ホーホーと鳴く。この鳥が鳴くようになったら、サトイモの種を下ろすがよい。サトイモはマレー地方が原産と見られ、温暖多湿が適地で、発芽が遅い。いもおやしは芋を生やす意であらう。(愛媛県)	3

178	辛夷(こぶし)の花見て芋上げろ.	コブシが咲いたら種芋(サツマイモ)を上げて、苗をつくるがよいということ。サツマイモは寒さに弱いから、寒害をうけぬよう苗作りが大事である。(茨城県)	3
179	杜鵑(ホトトギス)が鳴くと山の芋が芽をだす.	この時期に合わせて、種芋の植え付け準備にとりかからねばならないということ。最近では砂丘地で多く作られるようになった。いずれにしても植え付け時期が早過ぎると、種芋を腐らす恐れがある。(鳥取県)	3
180	藤の花が咲くと蕨(わらび)が芽をだす.	山のフジの花が咲くのと、ワラビが芽を出すのが大体同じ時期であること。(青森県)	3
181	躑躅(つつじ)の花盛りには蕨(ワラビ)の出盛り.	最近では山菜採りが一つのブームになっている。(新潟県)	3
182	紫蘇(しそ)の実採りは花三分.	シソの実を採取する時期は、花が上の方に三分くらい咲いているうちに採るがよいということ。全部実になるまで待っていると、下のものは硬くなりすぎて時期を失することになる。	3

解説の空欄は文献にデータがなかったことを示す。

出典の番号は、1; 川口(1972), 2; 星(1975), 3; 星(1979)に対応している。